

■外装計画

- ・環境との融合に着目した機能性と持続性を表象することにより、景観形成をリードする公共建築を計画します。
- ・圧迫感を抑え、周辺地域の街並みにとの融合を図ります。
- ・自然環境との親和性をテーマとした、温かみと持続性のある立面計画とします。

■使用材料

既存施設棟

- ・外壁材は、コンクリート打放のままとし、吸水防止剤塗で再塗装とします。
- ・屋根は、防水性能が特化した塗膜防水で防水層を形成し、上塗材は、耐久性・耐候性の高い塗料で計画します。
- ・アルミサッシは現状のままで、ガラスを複層ガラスへ交換し、断熱性能を向上させると共に空調負荷の低減を図ります。
- ・トップライトは、法的規制・機能性・コスト面等を考慮して改修方法を比較検討し決定いたします。

屋根（庇）棟

- ・外部露出する柱は、耐候性が高い溶融亜鉛メッキを計画します。
- ・屋根は、防水性能が高い高強度ウレタン・ゴムアス複合塗膜防水で計画します。
- ・屋根部分には、20KW 相当の太陽光パネルを設置し、創エネルギーを導入します。

レストラン棟

- ・屋根・外壁は、ニッケル・モリブデンフリー省資源型高耐食塗装ステンレス鋼板を使用し、建物の長寿命化を図ります。
- ・一部外壁材に、セメントの質感を生かした無垢の建築素材を使用し、自然素材と調和しながら人とともに時間をきざめる建材を選定します。
- ・屋根・外壁面には、外断熱仕様とし、空調負荷の低減、高断熱化を図り省エネに寄与します。
- ・ガラスは、複層ガラスを選定し、断熱性能を向上させます。

■トップライト改修比較検討

- ・現状のトップライトは、漏水箇所が見られ、改修が必要な状況である。
- ・また、施設運営側では、夏場、日が当たって施設運営に支障がありとの意見がある中で改修方法について検討を行った。

	A 案	B 案	C 案
イメージ図	<p>排煙面積：(0.6879×1.02) = 0.7016m²/窓 0.7016m²×30窓=21.048m²</p> <p>W1020×H687.9×30窓</p>	<p>排煙面積：(0.8402×1.07) = 0.899m²/窓 0.899m²×17窓=15.283m²</p> <p>W1070×H840.2×17窓</p>	<p>排煙面積：(1.01×1.07) = 1.0807m²/窓 1.0807m²×15窓=16.2105m²</p> <p>W1070×H1010×15窓</p>
改修概要	既存鉄骨部を残置し、トップライトを新設。法的必要な排煙面積は、最小限に抑え、それ以外はすべてFIXのアルミパルで計画。	既存鉄骨部を残置し、トップライトを新設。法的必要な排煙面積は、最小限に抑え、それ以外はすべてFIXのアルミパルで計画。	既存鉄骨部を残置し、トップライトを新設。法的必要な排煙面積は、最小限に抑え、それ以外は、ステンレス鋼板で計画。
意匠性	現況形状のデザインを継承する形で改修 ○	三角形を取止めた改修であるため、現況のデザインと異なる △	現況形状のデザインを継承する形で改修 ○
機能性	アルミパルで日差しを遮ることは可能だが、断熱性能が劣る △	アルミパルで日差しを遮ることは可能だが、断熱性能が劣る △	ステンレス鋼板で日差しを遮ることが可能で、ステンレス鋼板裏に断熱を組込み事が可能 ○
コスト	97,275,000円 ×	51,341,000円 △	33,329,000円 ○
総評	×	△	○

(5) 内装計画

■ぬくもりがあり、維持管理がしやすい内装

(1) 既存施設棟

- ・内装材は耐久性・更新性があり、維持管理しやすい材料を選定します。
- ・使用材料はシックハウス対策に配慮した材料を選定します。
- ・エントランスホール（24時間対応）、農産物直売所（一部）は、天井面に天然木を採用することで、自然素材のぬくもりに包まれた親しみやすく、居心地の良い空間を計画します。
- ・便所等の水回りには掃除がしやすい壁材を採用します。
- ・床材は、木の温かみや味わい深く古き良き空間を演出するため、フローリング材を選定します。
- ・生花コーナーは、上部から花を飾るなどで目に留まる演出を計画します。

(2) レストラン棟

- ・内装材は耐久性・更新性があり、維持管理しやすい材料を選定します。
- ・使用材料はシックハウス対策に配慮した材料を選定します。
- ・木造の構造体（CLT[®] 材）を露出することで木の温かみを感じ取れる空間を計画します。
- ・内部柱（樹柱）は、木の枝をイメージしたデザインとし、空間の華やかさと樹柱ごしに見える新川との一体的な空間を演出します。
また、樹柱そのものが構造体として屋根面を支える計画とします。
- ・厨房の内装は、ステンレス貼りを選定し、メンテナンスや日々の汚れ等に配慮します。



既存施設棟 内観パース



レストラン棟 内観パース

(6) サイン計画

■誰にでもわかりやすい、ユニバーサルデザイン

- ・サインの形状、記号、書体、色彩などのデザインを統一し、来客者が認知しやすく目的の場所に誘導されやすいデザインとします。
- ・周辺案内、敷地内案内、建物案内、各店舗案内へと、案内内容を面から点へ階層的構成し、来客者を円滑に誘導するサインシステムとします。
- ・サインに標記される言語は、日本語以外の多言語化への対応も検討します。
- ・直感的にわかりやすいピクトグラム（絵文字）を取り入れたサイン計画とします。
- ・視覚障害者が施設内部の情報を的確に把握できるように点字による表示を行います。
- ・総合案内を来客者入口から視認できるインフォメーション付近に設置し、よりわかりやすい施設案内を計画します。
- ・施設内の掲示板や大型モニターで防災機能や災害時の役割、自主防災に関する情報等を発信し、防災啓発を図ります。

■情報発信できるデジタルサイネージ（電子掲示板）の活用

- ・デジタルサイネージ（電子掲示板）を活用し、農業の取組や生産者の紹介などを情報発信し農業に関する関心を深められるように計画します。
- ・災害時には災害情報の提供を行えるシステムとして、安心・安全を得られる計画とします。
- ・ポスターや広告物をデジタルサイネージ化することで、掲示スペースの低減、美観の維持に配慮する共に、最新の情報が一早く来客者へ伝わるように更新性の向上を図ります。

段階的誘導サインシステム

